

第31回シクロデキストリンシンポジウム開催のご報告

第31回シクロデキストリンシンポジウムを平成26年9月11日（木）、12日（金）の両日、島根県民会館にて185名の参加者を迎えて開催いたしました。

初日の午前中には5演題の一般口頭発表が行われ、最新の研究成果が発表されました。午後には35件のポスター発表に続いて、台湾国立交通大学の濱口宏夫先生と広島大学大学院の江幡孝之先生による特別講演を開催いたしました。濱口宏夫先生には、「ラマン分光イメージングによる生体系の *In vivo/In situ* 分子状態分析：光合成バクテリアおよびシクロデキストリン包接化合物中のカロテノイド」と題したご講演において、最新のラマン散乱分光法の生体系への応用や、シクロデキストリンに包接された化合物の観察への応用についての研究をご発表いただきました。江幡孝之先生には、クラウンエーテルをモデルにホスト-ゲスト間の包接平衡における構造変化や、溶媒分子数を段階的に増やした錯体の構造や結合エネルギーについての、レーザー分光と量子化学計算による研究をご発表いただきました。2名の先生のご講演により、最新の分光学の成果をホスト-ゲスト科学に応用することで、新たな発見を見出すことが可能だと確信いたしました。続いて行われたシクロデキストリン学会総会の後には、平成26年度の学会賞を受賞された上智大学の早下隆士先生と、奨励賞を受賞された千葉大学の東頭二郎先生の表彰式が執り行われました。その後、奨励賞を受賞された東先生に「シクロデキストリン同士で形成される空間を利用した新規複合体の設計」と題して受賞講演を行っていただき、シクロデキストリンの分子空洞とは異なる空間への薬剤の封入により、新たな製剤的応用が可能であることをご紹介いただきました。初日の夕刻からは会場をサンラポーむらくもに移し、144名の参加者を迎えてのシンポジウム懇親会を開催いたしました。

二日目の午前には、5演題の一般口頭発表が行われ、活発な質疑応答が行われました。その後、平成26年度の学会賞を受賞された上智大学長の早下隆士先生に「シクロデキストリンのナノ空間包接場を用いた超分子分析試薬の開発」と題したご講演で、シクロデキストリンを用いた新規の化学センサーについてご発表いただきました。また、株式会社シクロケム代表取締役の寺尾啓二先生には、特別講演を兼ねたランチョンセミナーにて行われた「補完・代替医療用機能性食品素材ならびに薬用化粧品素材のシクロデキストリンによるナノテク革

命」と題してのご講演において、食品および化粧品分野におけるシクロデキストリンを用いた研究開発についての最新の知見をお話いただきました。午後からはポスター会場に場所を移し、32件のポスターが発表されました。その後に行われた4演題の一般口頭発表を最終セッションとし、第31回シクロデキストリンシンポジウムを閉会いたしました。

本シンポジウムの開催にあたりましては日本化学会、日本薬学会、日本薬剤学会、日本農芸化学会、日本分析化学会、日本糖質学会、日本応用糖質科学会、日本素材物性学会、高分子学会より共催・協賛のご協力を頂きました。また、以下にご紹介させていただきます関連団体および企業の皆様より多大なご支援を頂戴し、本シンポジウムを開催できましたことを申し添えるとともに、心より感謝申し上げます。塩水港精糖株式会社、株式会社シクロケム、純正化学株式会社、有限会社新成化学、ナガセ医薬品株式会社、ナノデックス株式会社、日本シクロデキストリン工業会、日本食品化工株式会社 (50音順)

最後になりましたが、本シンポジウムの開催について、懇切丁寧にご指導頂きました前会長の池田 宰先生に心より感謝申し上げます。また、シンポジウムの準備、運営にご協力頂いた学生の皆様に感謝申し上げます。

第31回シクロデキストリンシンポジウム実行委員会

実行委員長 山本達之

(島根大学生物資源科学部生命工学科 教授)